ベストを尽くし 全国大会で〝がばい旋風〟を！

多久市消防団の選抜チーム『パワーオブ13』の全国制覇に期待！

▲竹廣喜友指揮隊長（後列左端）と全国大会に出場するPower of 13の福島竜也指揮者（後列左から２人目）をはじめとする13人のメンバー

全国消防操法大会ポンプ車競技の部に出場する多久市消防団の最強メンバーが10月12日に東京で行われる大会に向けて、厳しい訓練を続けています。多久市が県代表として出場するのは30年ぶりのことで、選抜チームの計画的な強化訓練はもちろん、陣内成和団長以下、本部・各分団382人が団結し、組織をあげた協力体制で全国制覇を目指しています。市民の安全・安心のため、地域防災体制強化に役立てることを目的に、全国から選りすぐられた消防団の代表が日頃の訓練の成果を発表する大会です。みなさんの声援が実力発揮にもつながるでしょう。

全国大会に出場するのは、２年前の県大会で優勝した西多久分団と昨年の市総合訓練大会での優秀選手を基本に13人で編成した選抜チームで、『Power of 13』（パワーオブサーティーン）と名付けた最強メンバーです。今年２月、プロのトレーナーの指導を受けたストレッチ、筋トレなどの基礎体力づくりから本格的訓練をスタート。

多久消防署をはじめ団本部や指揮隊長の指導の下、計画的な訓練構成を組みながら、操作や連携訓練など西渓中学校グランドで夜間訓練を重ねています。この訓練には、全団員が交代で手伝いにあたり、サポート体制も組織が一丸。多くの支援や応援の声にも応え、出場隊は、訓練日以外の自主的な個人訓練も積み、現在は最終仕上げ中です。

女性消防操法大会と隔年で開催されるこの全国大会は、小型ポンプ操法とポンプ車操法の競技に分かれ、各県交互に出場。今回佐賀県はポンプ車で、24代表チームが競います。設置された防火水槽からポンプ車に給水し、１本20メートルのホースを３本連結して、火災現場を意識した火点（かてん）と呼ばれる的をめがけて放水。的を倒すまでの一連の手順で、ポンプ・ホースなどの操作を速く、正確に行うとともに、動きの美しさやチームワークを競うもの。わずか、２分間で２つのラインを作り、標的を倒すハードな競技は、本番会場で普段の実力を出し切るかがカギを握ります。出場隊と熱い信頼でつながる竹廣喜友指揮隊長は「まず、プロ指導の理想的な体や筋肉づくりから始めたので、長期間の訓練にも耐え、ベストの動きが練習で体に刻み込まれたと思います。重ねた努力とチームワークで目指すは全国優勝！市民のみなさんの応援もお願いします」と話し、士気を高めています。

・・・

なお、９月７日に陸上競技場で行われた第46回多久市消防団訓練大会の結果は次の通りです。

訓練礼式の部
- １位　西多久分団第１小隊
- ２位　西多久分団第２小隊
- ３位　北多久分団第１部

ラッパ吹奏の部
- １位　西多久分団
- ２位　北多久分団
- ３位　多久分団

多久市消防団
陣内　成和　団長

■多久市消防団は、市民の生命、身体、財産を守るため、火災だけでなく、防災（水害や土砂災害）や行方不明者の捜索など、最前線で活動しています。精鋭揃いの382人が所属し、しっかりとまとまりのある消防団は他にないと自負します。その中から、出場するのは、多久市最強メンバーで、全国大会への出場は昭和53年以来。家族や職場の理解と多くの支えがあって、日々の計画的な訓練や率先した自主訓練の姿を見ていると、私は必ずや結果が伴うと信じ、がばい旋風を巻き起こしたいと組織も一丸となって意気込んでいます。しっかり練習したことを自信に、人生で何度もない貴重な経験ができることを誇りに、悔いのないよう頑張ってきてほしいと思います。市民のみなさん！寄付や志など色んな形で激励していただき、ありがとうございます。この貴重な出場経験と団結力、組織力を市民のみなさんの安全・安心のために活かすことがお礼だと思い、全国大会に臨んできます。